1つの屋根と2つの縁側

一枚の屋根を架ける．
シンプルな操作が人々を引き込み，営みを拡げる．
最初は小さな営みだったものが，次第に大きくなり，
新たな庭の風景をつくる
そんな開かれた庭をつくるための，大きな器を持つ休憩所をつくる．


庭と緩やかに繋がる屋根が人々を迎え入れる

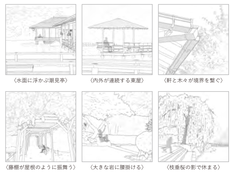

黒の空間が屋根や小屋組み，外の環境を引き立たせる


軒と石垣に囲まれ，心落ち着く犬走りを回遊する

敷地調査

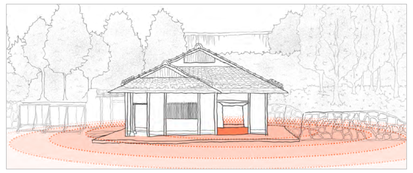
1. 三景園に点在する東屋と自然

三景園に点在する東屋は，壁で空間を仕切らず，内外が連続する，拡がりのある休憩所となっています．また，自然が作る木陰などは，私達に休憩の場を与えてくれています．
新たな北門側の休憩所においても，内外が繋がり，拡がりのある休憩所になるべきではないでしょうか．



新たな休憩室としての在り方

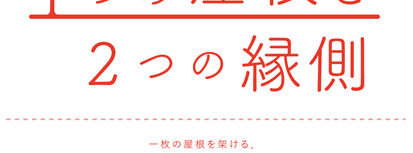
2. 拡がりを持った休憩所に



既存の建築は，磨りガラスや壁によって閉じられており，内外が切り離されています．今回休憩所にリノベーションするにあたって，新たな休憩所は，人々を北側に誘うと同時に，再び庭園に送り出す中継地点になります．そこで，**私達は内と外の境界をほどくことで，庭と連続する拡がりを持った休憩室を提案します．**

シンプルな操作で人々を誘う建築計画

3. 内外の境界をほどく一繋ぎの屋根

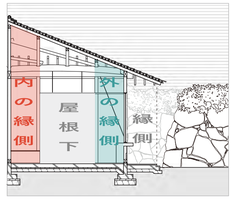


限られた室面積のため，壁で空間を分節するのではなく，**内外を横断する一繋ぎの屋根を架けることで境界をほどきます．**この屋根によって，内と外の境界がほどかれ，休憩室に拡がりが生まれます．また，屋根はシルバーのアルミで構成され，**人々の営みや自然環境を映し込む，大きな器としての屋根**になります．

一つの操作によって生まれた多様な空間

4. 一つの屋根と二つの縁側

中央に屋根を架けることで，**屋根の両脇に縁側のような境界が生まれます．**外の縁側は，自然に面する点を活かし，**水平方向の境界をほどく縁側**として扱い，内の縁側は，建築の棟に面する点を活かし，**垂直方向の境界をほどく縁側**として扱います．そして，屋根がその両者を取り持つことで，異なる三つの質を持った休憩所をつくります．



異なる空間の質を持つ，屋根と縁側

内の縁側 - 手仕事の跡を感じる素材 -
大きく立ち上がる壁とあらわになった小屋組．畳など，手仕事の跡が感じられる素材が集まることで，身体感覚に寄り添った，温かみのある縁側になります．



屋根下空間 - 抽象的なシルバーの屋根 -
抽象度の高いシルバーの屋根は，隣り合う縁側の異なるスケールを繋ぎ留めつつ，反対に位置する正門や潮見亭との接続を予感させ，拡がりのある空間体験を生み出します．



外の縁側 - 読み替えられるコンクリート -
腰掛やテーブルなど，機能を限定されず使われる，高さ650mmのコンクリートは，石垣との連続性によって，自然のスケールへと繋ぎ留められ，外に拡がりを持った縁側になります．

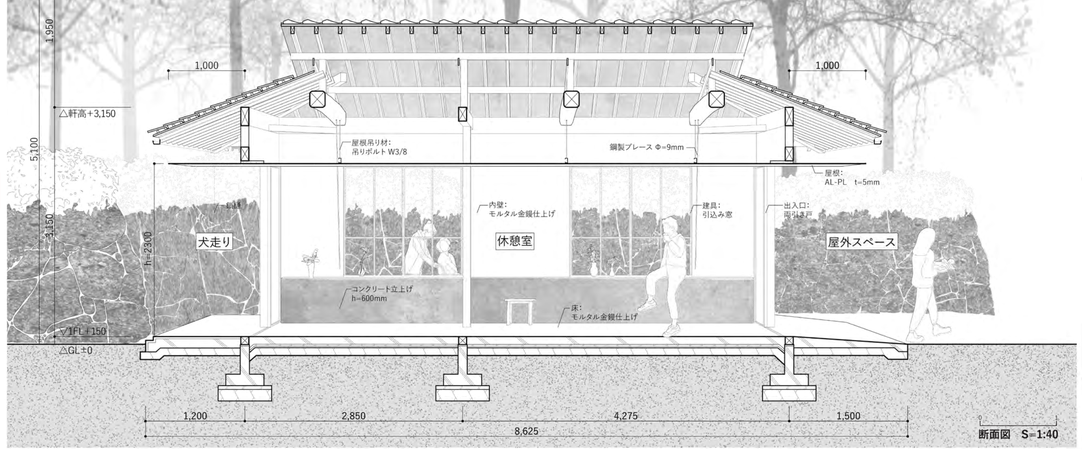


空間に拡がりを生む断面計画

境界をほどき，内外を繋ぐ大屋根

休憩室のフレキシビリティ - 柔軟性への配慮 -
休憩室は，全体を柱や壁で区切らず，大きな一室空間とすることで，誰もが使いやすい計画にします．また，この計画によって機能を限定せず，様々な使い方に対して，柔軟に対応できるフレキシビリティのある休憩室にします．

環境を引き立たせる黒 - 折り返しとなる休憩室 -
休憩室内装を黒色にします．黒色は内の縁側に拡がる小屋組や開口部から見える石垣，さらには庭の石や水，植物を主役として引き立たせます．また，この休憩室が庭の折り返しであることを知覚させるスイッチとして機能します．

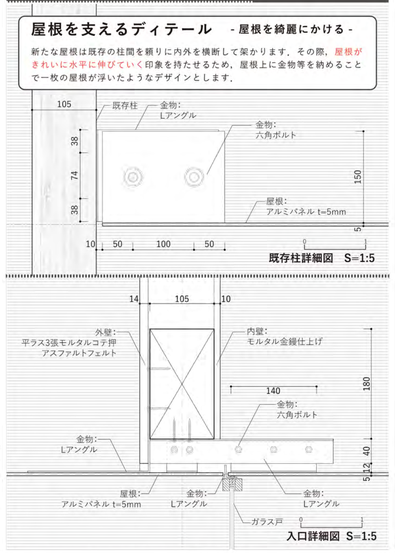


断面図 S=1:40

新たな屋根を支える詳細計画

既存を頼りに構成される屋根

屋根を支えるディテール - 屋根を綺麗にかける -
新たな屋根は既存の柱間を頼りに内外を横断して架かります．その際，屋根がきれいに水平に伸びていく印象を持たせるため，屋根上に金物等を納めることで一枚の屋根が浮いたような佇まいとします．



休憩所に引き継がれる物質の痕跡

モノとモノの重なりが生む，空間の重なり



空間を受け入れる柔軟な平面計画

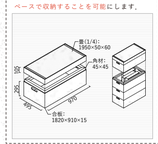
屋根を架けたことで生まれる，多様な休憩の場

トイレ空間を豊かにする素材計画
・天井：FRP 平板
天井材に FRP 平板を使用することで，天井高を変更せず，圧迫感の無い，開放的なトイレ空間にします．
・内壁，床：タイル貼り
内壁・床はタイル貼りとし，清掃を容易にし，維持管理のしやすい計画とします．

わかりやすく，魅力的なサイン計画
新たなサイン計画に使用される材料を庭師の方々が使用していた鋏製器具をアップサイクルし制作します．

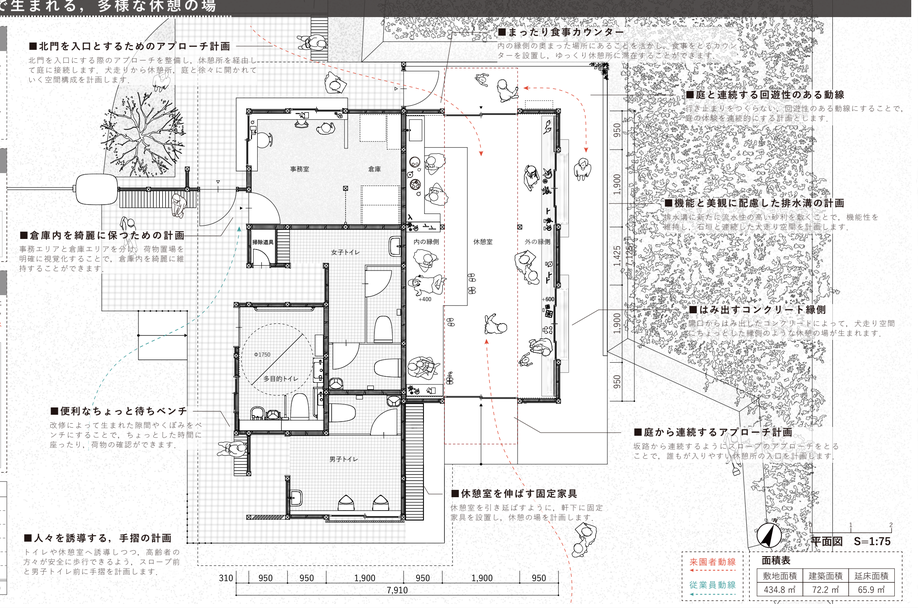


空間を横断する移動計画
既存の壁を改修し，多様な使い方に柔軟に対応する移動壁を計画します．また，スタッキング形式にし，収納時も必要最小限のスペースで収納することを可能にします．



積算表

直接工事費	建築工事	14,665,406
	電気設備工事	2,148,000
	機械設備工事	7,080,000
	その他	4,737,513
	共通費	15,616,864
	消費税 (10%)	4,424,778
	合計	48,672,562 （円）



平面図 S=1:75

来園者動線
従業員動線

面積表

敷地面積	建築面積	延床面積
434.8 ㎡	72.2 ㎡	65.9 ㎡

〈ゆったりするくつろぎの場〉


壁にもたれかかり外を眺めたり，幅の広い縁では最敷のように使用するなど，ゆったりくつろぐ休憩ができます．

〈縁側を軸に回遊する〉


縁側のコンクリートを展示スペースとすることで，人々を集に誘う，回遊性のあるギャラリーとして使用できます．

〈様々な場所に居場所をつくる〉


休憩室を含め，様々な場所に休憩する居場所をつくることで，人々が思い思いの居場所で休憩することができます．

〈屋根下を中心に集う〉


屋根下を中心的に使うことで，制作物の発表会や演奏会，講演会などの催しを開催することができます．

〈新たな入口となる屋根〉


アプローチを休憩室に引き込むことで，この屋根は人々を庭に誘う屋根，始まりの屋根としての役割を持ちます．

〈営みを引き延ばす〉


屋根から仮設タープを伸ばすことで，休憩室を超えたような広場間でき，イベント時にも人々に配慮を提供できます．

休憩所と庭と地域に開くプログラム

小さな開きから，新たな庭の風景を創る

1. 北門が持つ，場所のポテンシャル
北門は正門と異なり，県道に面し，私達の日常に近い存在にあることから，庭と地域を繋げる入口としてのポテンシャルを持つ場所ではないでしょうか．

2. 周囲に点在する活動を結ぶ休憩所
周囲には魅力的な活動があり，北門はそれらを結びつけることのできる可能性があります．そこで，庭を地域に開き，人々や活動の接点をつくる入口という，新たな役割を提案します．

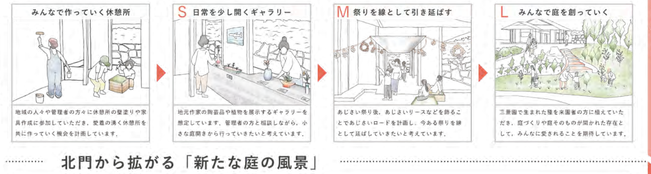
〈調査〉 Survey



〈提案〉 Proposal

「小さな庭開き」から始める

人手不足という現状があるなかで，庭と地域を結ぶ入口になるためには，「小さな庭開き」から始めることが重要だと考えています．今ある資源を活かし，小さな営みを積み重ねることで，みんなで庭を育てていく風景を創っていきたいと思います．



〈展望〉 Vision

北門から拡がる「新たな庭の風景」

